

研究集会名： 各種顕微鏡と極微細加工、操作で拓く化学、工学、生物学
場 所： 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール III
日 時： 平成18年 9月 5日（火）10:00~17:40
参 加 者： 教員、大学院生、博士研究員、民間企業研究者
参加者総数： 約45名
主 催： 京都大学21世紀 COE プログラム 京都大学化学連携研究教育拠点
協 賛： 分光学会関西支部

講演内容は以下のようであった。

「近接場光学顕微鏡による高分子の構造評価」 青木裕之(京都大学大学院 工学研究科)
「fsレーザーによる無機材料への機能性付与」 下間 靖彦(京都大学 国際融合創造センター)
「多光子顕微鏡による生体の観察・加工・制御」 藤田克昌(大阪大学大学院 生命機能研究科)
「動的近接場分光法と波動関数イメージング」 岡本裕巳(自然科学研究機構 分子科学研究所)
「伝導性 AFM によるカーボンナノチューブ回路の評価」 藤原明比古(北陸先端科学技術大学院大学)
「AFMによるタンパク質複合体のイメージングと力計測」 吉村成弘(京都大学大学院 生命科学研究科)
「高圧力顕微鏡の開発と生体系への応用」 西山雅祥(京都大学大学院 理学研究科)
「植物型光合成膜の高分解スペクトルイメージング」 熊崎茂一(京都大学大学院 理学研究科)

技術的共通性が高いが日頃異なる学会で語られる講演が一堂で語られることにより、日頃交流の少ない研究者間でも討論が行われ、幾つかの問題点が認識されたという点で有意義な研究集会であったと思われる。特に学生にとっては日頃関わる顕微鏡技術が広範な科学、技術分野で使われていることを認識できたと思えば有益であったと思われる。各研究に使われている顕微鏡の種類も、近接場顕微鏡、原子間力顕微鏡、に加え共焦点顕微鏡でも各種高速走査が可能なものと多様な技術的展開に触れる事ができた。大学関係だけではなく、民間企業からも参加者があった点も有意義であったと思われる。



写真：会場後方より報告者が討論風景を撮影